

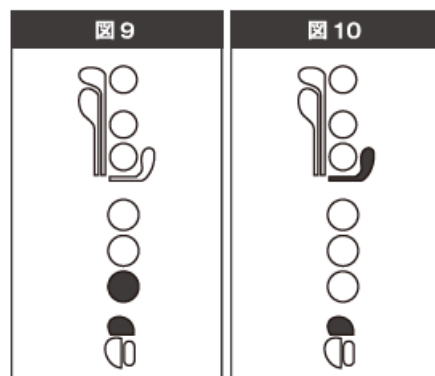


IV 行進曲「道標の先に」／岡田 康汰



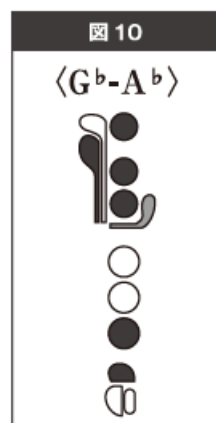
◆Piccolo

高音域での tr. がたくさん出てきますが、頭を吹いたら音を張りすぎずに伸ばすと軽くなります。tr. を外して練習し、良い音の雰囲気になったところで吹き方を変えずに tr. をする練習をしてみてください。[C] から f, [D] も f の指示になっていますが、特に tr. は mf くらいがバランス良く軽くなります。83 小節からの cresc. は大きく聴こえやすい高音域からですので、2 小節は小さくキープして吹くと効果的です。135 小節目の D^b は高くなる場合は図 9 の運指、低くなる場合は図 10 の運指を試してみてください。[J] から f の指示も頑張り過ぎずに軽い音にしたい箇所ですが、特に 151 小節目からアンサンブルを綺麗にしたいですし高音ですので、小さめからスタートするとバランスを取りやすいです。



◆Flute

まずこの曲は Picc. と 1st Fl. が全く同じ譜面なので、隅々まできれいにシンクロするようにしっかり合わせてください。装飾音符に付いているスラーが、次の 8 分音符まで繋がっている場合と繋がっていない場合があるので、繋がっていない時はきちんとタンギングをして吹き分けましょう。(例えば 1、3 小節目の GAHC はスラー、5 小節目は GAH までスラー、C はタンギングする。115 小節目は B^bC はスラー、D はタンギング。116 小節目も同様に) 27 小節目からの旋律は吹くパートも増えるので、頑張らず、楽に 4 小節フレーズの山 29 小節目に向かって吹くようにしましょう。51 小節目からの旋律には stacc. が書かれていますが、まず 8 分音符の音価の響きと長さを大事に stacc. を取って練習して、徐々に少し軽くするぐらいのイメージが良いと思います。stacc. = 短くと思うと響きが止まってしまうので注意! 56 小節目の 2nd の 3、6 拍は音が下がり響きにくいので、しっかり吹くようにしましょう。127 小節目 G^b-A^b の運指は図 10。135 小節目の旋律は Fl. アンサンブルの美しいところです。137 小節目の 4 分音符の stacc. は、8 分音符まで短く休符が入ったようにならず、軽く少し余韻もしくは vibrato で響かすようにしましょう。165 小節目からのアクセントスラーはアクセントではなく響きのあるテヌートだと思って吹きましょう。

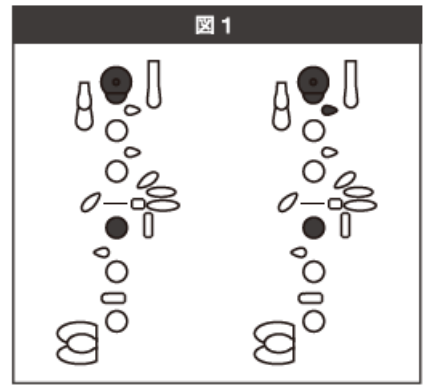


- = 抑える指
- = tr. する指

◆Oboe

Oboe パートは 51 小節～ 58 小節、71 小節～ 74 小節が特に聴かせ所ですね。と言っても決して単独の主役ではありませんので、木管アンサンブルのスパイス的存在になれば素敵ですね。in Tempo になると tr. の難易度が上がります。焦らず確実に出来るテンポから根気

よく練習をして下さい。また、騒がしい tr. になってしまいがちなので周りや自分の tr. の音色をよく聴いて下さい。71、72 小節目の tr. は tr. キーを使います (図 1)。**[H]** からのメロディを吹く時はしっかり **[G]** の流れを掴んでおきましょう。至る所にアクセント記号がありますが決して攻撃的にはならないよう注意して下さい。また、付点 4 分音符が続く所は特にビート感を失いがちになってしまうので常に 6/8 拍子を意識する習慣を付けましょう。



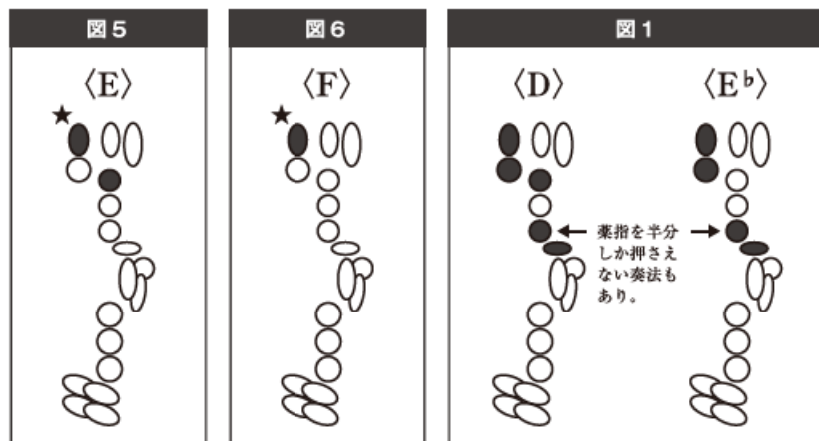
◆Bassoon

7 小節目のような形は全ての音がアクセントなようにならないように気を付けましょう。**[B]** から 4 分音符を長く演奏すると重たくなってしまいますので、軽めに演奏しましょう。35 小節目から *cresc.* がありますが、早くから大きくしないように気を付けましょう。42 小節 2 拍目からアクセントが多いですがフレーズを大切にしっかりと演奏しましょう。50 小節目のアクセントは大きくなり過ぎずにしましょう。*dim.* も素早く *p* まで落としましょう。51 小節目からもフレーズ感を大切にしましょう。*f* から *mf* に音量を落とす時はテンポ感、音色感なども気を付けましょう。**[I]** からはしっかりと演奏しますが、拍子感を損なわないように。135 小節目の *mp* は少し小さめから入り、小節ごとに *cresc.* をすると上手くいくと思います。**[K]** から 4 分音符と付点 4 分音符をしっかりと吹き分けましょう。174、176 小節目にアクセントはありますが *mp* なので、勢いで大きくなり過ぎないように気を付けて、しっかりと *cresc.* をしましょう。

◆E^b Clarinet

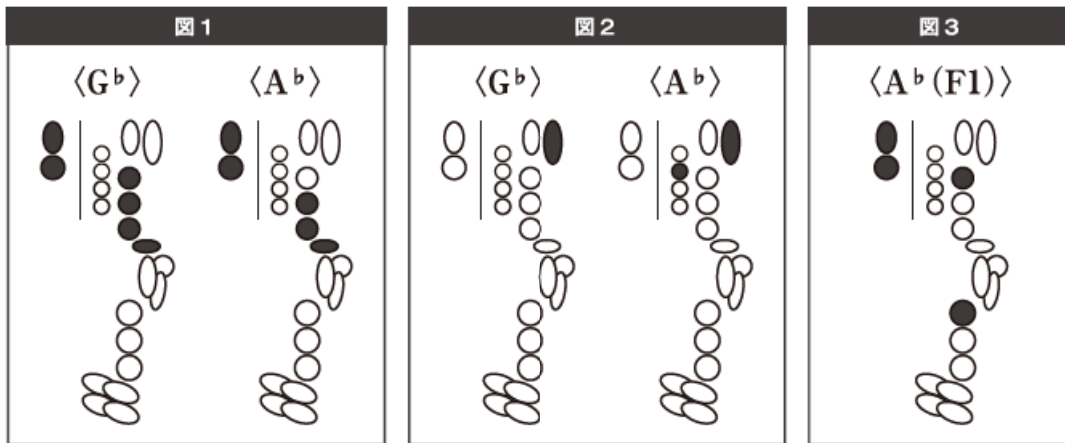
1 小節目&3 小節目と 5 小節目では実はスラーの切れ目が違いますので注意してください。装飾音符は前に出すのが良いでしょう。8 小節目は正規の指で演奏しても構いませんが、もう少し簡単な指があるのでご紹介します。図 5、6 のように下の音の倍音を使います。48 小節目の tr. は音程が気になりますが、右手は動かさず、左手小指だけ動かせば良いと思います。目立つところに *stacc.* がたくさん出てきますので、舌の位置が下がらないように、またタンギングをする時に息の圧力が無くなってしまわないように注意して演奏しましょう。曲中に出てくる **D** や **E^b** の音は音程が高くなりやすいので図 1 の運指を参考にしてください。

★レジスターキーを
押さなくても
出るようにしましょう!



◆B^b Clarinet

冒頭の装飾音符は指を上げ過ぎずコンパクトに動かしてみましょう。5小節目の装飾音符から8分音符へのアーティキュレーションもよく見ると、装飾音符だけにスラーがかかっている、8分音符の頭にはアクセントの指示があるので、可愛らしく軽妙なリズムになるように練習してみてください。[A]からのメロディは、フレーズが長く、しかも長いスラーが多用されています。このような場合どうしても滑らかに演奏しようとし過ぎるあまり、テンポ感や6/8拍子のリズム感を失った演奏になりがちです。周りのリズムセクションの音をよく聞きつつ、テンポキープを意識された美しいメロディラインを作り上げてください。また、長いスラーの中にもフレーズの重心(頂点)を意識的に作らないと、どうしても平坦な歌い方になってしまいやすいので注意が必要です。[C]からのリズムは2拍目の付点4分音符を重く演奏しがちなパターンです。そうすると、全体の推進力が損なわれ、かつうるさく聞こえてしまいます。2拍目のアクセントを見せたら軽く抜いてあげると上手くいくようです。51小節目 stacc. はあまり短くし過ぎず、セクションとしての和声を軽やかに聞かされる長さで処理が望ましいですね。[G]からは大変美しいメロディで、Clarinet 的にも良い音色の出せる得意な音域です。mp となっていますが、比較的コントロールしやすい音域であるのと、音域の低さから割と埋没しやすい演奏になりがち。しっかりと息の支えを伴った mp のブレンドされたサウンドを目指しましょう。また、このメロディも [A] 同様、フレーズの長いメロディですので、意識的に山や谷をしっかりとみせて、平板な演奏にならないように注意が必要です。127小節目の G^b-A^b の tr. は、1st は G^b を押さえたまま左手の人差し指で(図1)、2nd、3rd は同じく G^b を押さえたまま、右手のサイド・キィの上から2つ目で演奏します(図2)。129小節目の A^b の運指は両手人差し指(通称 F1) で演奏するとスムーズです(図3)。135小節目からの突然の p は鮮やかに、p の音色が響きを失わないようにコントロールしてください。156小節目の 2nd、3rd の4分音符+8分音符のスラーは、タイととらず8分音符を軽くタンギングしましょう。



◆E^b Alto Clarinet

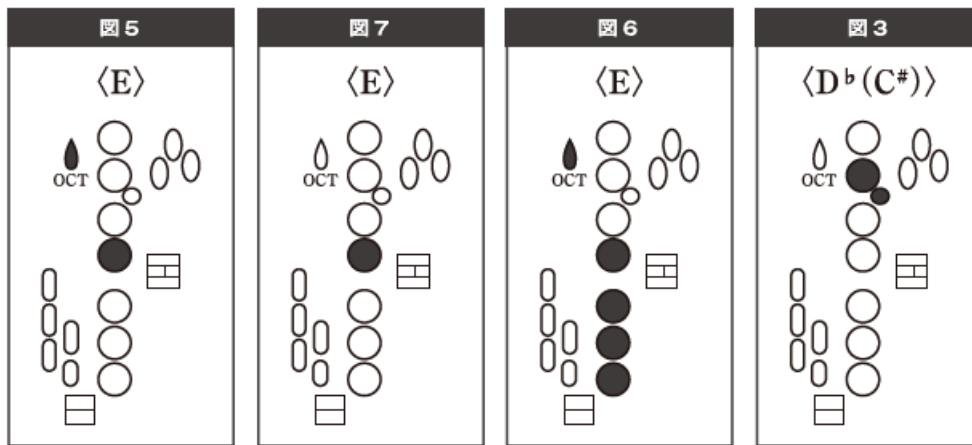
A.Cl. は T.Sax、Euph. と同じ旋律を吹くことが比較的多いのですが、この曲の [J] からは Trb. と同じ旋律を吹きます。しっかりと聴きアンサンブルしましょう。29小節2拍目、48小節目、77小節2拍目や85小節2拍目、164小節1拍目など他にも多くこの曲に多く出てくる D の音は音程が高くなりやすい音です。しっかりとコントロールし音程に気をつけましょう。付点4分音符は重くならないように演奏しましょう。6/8拍子のリズムを感じましょう。

◆B^b Bass Clarinet

[C] は 4 分音符に重心をおくと上手く吹けるかと思います。51 小節目からは素早く切り替えて柔らかく演奏し、また次の低音のメロディを力強く吹きましょう。[G] からは全体の音量が落ち、自分の音も良く聴こえるようになるかと思います。他のパートの音をしっかり聴き、テンポを刻みましょう。135 小節目からはリズムが崩れそうになりそうですが、しっかり 8 分音符を感じ、速くならず、遅くならないよう正確に吹きましょう。

◆E^b Alto Saxophone

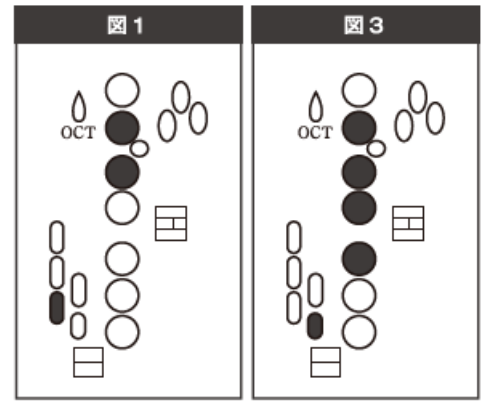
13、14 小節の E 音は図 5 の運指を使うと次の F 音へ綺麗に繋がります。この運指は楽器によっては音程が高くなり過ぎてしまう場合がありますので、その場合は図 7 のようにオクターブ・キィを離し薬指 1 本にすると音も安定し良いでしょう。86 小節の E 音は図 6 の運指を使うとバタバタせず良いでしょう。2nd の 148 小節、179、180 小節の E 音も同じ図 6 の運指を使用します。181 小節の E 音は通常の開法の運指で行くと良いでしょう。17 小節 C[#] 音は図 3 の運指を使いますが、私は D 音で人差し指を押さえたまま、C[#] 音の小さいキィ (bis キィと呼びます) を中指で押さえています。2nd の 38、39 小節の C[#] 音も同様に図 3 で中指を使用すると良いでしょう。同じ C[#] 音の運指を 128、133 小節、1st の 127 小節でも使用するのですが、この場合は図 3 の 2 つのキィを人差し指 1 本で押さえます。2nd の 165、166 小節は大事な動きです。ハーモニー変化を感じて大切に演奏しましょう。



◆B^b Tenor Saxophone

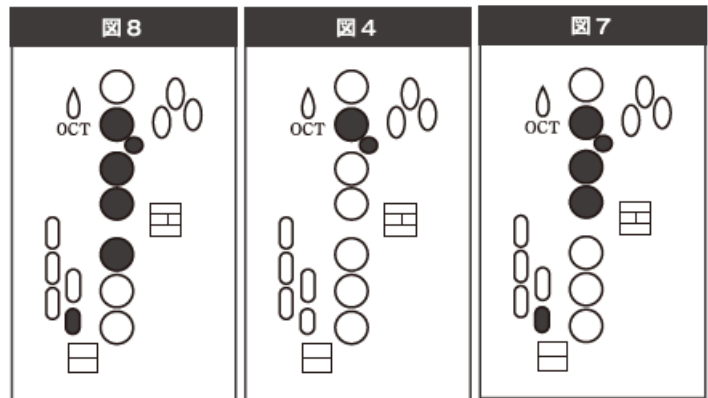
1 小節目の 2 拍目からのフレーズは次の 2 小節目の 1 拍目に重心を置いて演奏するとアクセントが良くみえてきます。27 小節目の 2 拍目の C の音は高くなるので注意して演奏します。33 小節目の 2 拍目の F の音はひっくり返りやすくなりますので指の動き (特に薬指) に注意して演奏します。38 小節目の 1 拍目裏の G[#] は図 1 の Ta キィを使うとスムーズに繋がります。46 小節目からはほとんどの音にアクセントがついていますが、アタックが強くなり過ぎないように注意して演奏します。アクセントは他の音よりも少し目立たせてという意味ですので決して「強く」吹き過ぎないようにします。51 小節目からの付点 2 分音符はテンポ感が無くなってしまいやすいフレーズです。テンポ感が無くなり間延びしてしまわないよう次の音符を掴みにいくようなイメージで演奏してみてください。[E] からのオブリガードは前半にあったのとは

違い marcato で演奏します。[G] からは Clarinet の音量を超えてしまわないよう、また Euphonium とのバランスも注意しながら演奏します。141 小節目の E→E# の運指は図 3 の Tf キーを使って演奏しています。150 小節目の 2 拍目 A^b は図 1 の Ta キーを使うとスムーズに繋がります。[K] からの旋律の強弱記号は ff になっていますが主旋律とのバランスを取りながら演奏します。181 小節目の E→E# は図 3 の Tf キーを使って演奏しています。



◆E^b Baritone Saxophone

38 小節目 A は図 8 の運指を使うことで A→A^b→G の指運びがスムーズになります。47 小節 1 拍目の A も同様に図 8 を使う事で前の音からの繋がりが良くなります。42、58 小節目 C# は図 4 の運指を使います。183、184 小節目 B^b の音程が低い場合は図 7 の運指を使います。この曲は何処がフレーズの山なのか確かめ、山に向かってどのように進んで行くのか、山からどのように下って行くのかと言うフレーズ感を持って演奏する事が大切です。旋律に合わせて 4 小節、または 8 小節毎に楽譜に斜線などの印をつけておくとより分かり易いです。伴奏として 4 分音符で刻んでいる事が多いですが、4 分音符を 8 分音符にタンギングで分けて「タタッ・タタッ」と言う様に吹いてみて下さい。何回か吹いてみて次に楽譜通りに吹いてみると 6/8 拍子の 4 分音符での頭打ちの感じが分かってきます。



◆B^b Trumpet

導入の 4 分音符アクセントはマーチの軽やかさを意識してベツタリしないように、曲の流れから遅れないようにしましょう。[B]mf の旋律は木管とのブレンドを大切にして、34 小節目のタンギングはスラーのフレーズに合わせた発音で跳ねすぎないようにしましょう。[H] も同様の事に気をつけましょう。35 小節目からの旋律は cresc. をしにくい音の動きになっています。35 小節目の音域が高いので音量は大きくなりやすく、28 小節目へ向けて下降するため小さくなりやすいです。ですので、特に 35 小節目を丁寧に吹いて cresc. を効果的にかけてください。[C][D] のスタッカート付きの 8 分音符は音一つ一つクリアな発音で出来るように心がけましょう。[E][J] 以降のスラーなしの旋律はその前のものとしっかりと区別出来るよう、はっきりとした発音とマーチの軽やかなノリを意識しましょう。全体的に休みが少なく耐久力を消耗しやすい曲です。後半 [J] からは対旋律と同等もしくは対旋律が主導する、[K] からはトランペットがメロディと全体のサウンドの主導権を握る、という意識を持たば、体力の配分にもなりますし、効果的に音楽が盛り上がっていきますので、工夫してみてください。

◆F Horn

この曲は、半音進行が沢山出てくるので、それぞれゆっくりと指を確認しながら練習し、テンポを上げていくと良いと思います。7小節目はアクセントをつけて8小節目に向かうように吹いてdim.して下さい。後にも出てくる17小節目からの8分音符の形は、音符の長さに注意してその前に吹いているトロンボーンと吹き方を合わせるようにしましょう。そしてグリッサンドはホルンしかないので目立つように大きく吹いて下さい。特に下の音を鳴らすように意識しましょう。[C]からは低音パートがメロディですが、ホルンも他とは違う動きをしているので埋もれないように大きめに吹いて下さい。67、68小節目はアルトサクソとホルンだけなのでしっかり吹く事と、68、70小節目1拍目の8分音符は次の2拍目の音がかぶらないように短く吹いて下さい。次に98、102、106、110小節目の2拍目8分音符が遅れないように皆で合わせて吹くのと、和音を確認しながら練習すると良いと思います。[I]からは、メロディとは別にホルンだけ違う動きをしているので、これも大きく吹きましょう。グリッサンドの音程がオクターブではなく取りにくいので、練習を重ねて音を覚えて吹くと良いと思います。最後に[L]からは半音が続けてあるのでここも練習を沢山しましょう。全体的にアクセントがどこについているかを見て曲を仕上げてください。

◆Trombone

この曲はスピード感が大切ですので、速めの息で遠くに向けて滑らせるイメージでのまとまった音作りが大切になってきます。スライディングも難しくなっていますので、身体の軸をしっかりと持ち、肩周り・胸元の空間を十分に使って演奏して下さい。[A]からのリズムで、小節の最後に音が変わる場合はその音の音程をはっきり見せるようにしましょう。ホルンとリズムセクションを交代することがありますので、音の粒のサイズ感はホルンに合わせてしまいましょう。35小節目からのハーモニーは、音量は小さくても最初からはっきりと発音して素早いスライディングを心がけると流れがスッキリします。[C]のメロディは、45、49小節目の1拍目にテンションの頂点を持ってきてフレーズ感を作りましょう。[D]も同様です。ただし後半が[C]と変わりますのでその変化はしっかりと見せるつもりで音程を明確に取りましょう。少しテンション高めで取ると良いかもしれません。83小節目は[B]の時と同じですが、スラーが取れているのでリズム感をより際立たせて、かつ滑らかに吹きましょう。[I]からは他のセクションを聞かせるためにやや控えめなバランスで。[J]からもリラックして演奏しますが、一度、146小節目のヘミオラに頂点を作った後、じわじわと[K]に向かいます。[K]から基本ユニゾンですが時折ハーモニーになりますのでその際は一瞬音圧を上げるつもりで吹けばバランスが取れます。

◆Euphonium

この曲では、8分音符は出来るだけ発音をはっきりと丁寧に意識して演奏しましょう。まずはアクセントを無しにしてどの音も丁寧な発音と音程を意識して同じ音量と同じ長さで吹けるようにしていきましょう。また8分音符が連続する場所は音の間に少し隙間を入れるイメージで練習してみてください。そこから6/8拍子の拍子感を意識してアクセントをつけて練習しま

しょう。[B]からの対旋律は少しゆっくりしたテンポでユーフォニアムの一番良い響きの音で練習してみてください。その際に頭の中で8分音符をカウントしながら吹くと歌いながらも前向きに聞こえる演奏ができると思います。テンポを速める際にはより息のスピードを意識してみてください。[C]のメロディはトロンボーンやチューバの音色を意識して発音が柔らかくなったり、息のスピードが遅くならないように気をつけましょう。またアクセントのついていない8分音符が弱くなりすぎないように気をつけてください。ここも一音一音丁寧に練習していきましょう。[E]からは[B]からのフレージングを意識しながらマルカートで演奏しましょう。[G]のメロディは音量が大きくなりすぎないようにしながら、息のスピードが遅くならないように気をつけてください。ここも全部スラーで少しテンポを落として良い響きで練習してみましょう。その際に97、101、109小節の頭の音にウエイトをかけてフレーズの重心を意識してみてください。[I]のアウトタクトからはすべての音にアクセントがついているので特に8分音符が弱くならないようにどの音もしっかり鳴らしましょう。トロンボーン的な音色が良いですね。[J]からも発音を明確に、また音程もしっかり歌うつもりでリズムが転ばないようにしましょう。ここも少しテンポを落としてクリアな発音と正しい音程を意識しましょう。この曲では、ユーフォニアムとしての柔らかい音色と、トロンボーン的なクリアな音色をしっかり場面ごとに使い分けられるとより表現の幅が広がると思います。

◆Tuba

6/8拍子のマーチです。2拍子のビートですので、基本的に1拍目に重心を乗せ2拍目は軽くして、行進しているように演奏します。6、7小節等の8分音符の連続部分は剥きになって全ての音符を吹きすぎてしまうとせっかくの軽快な6/8拍子が台無しになってしまいますので、楽譜の指示通りアクセントの位置を守って軽やかに演奏しましょう。ドタドタになってしまう場合はタンギングが強すぎる、もしくは指使いが力んでいるかもしれません。音程も含めて丁寧に練習しましょう。10小節目等のスラー部分ですが、後押しになってしまいがちなので、4分音符をはっきり入り8分音符は軽く(抜きすぎない)し、次の1拍目に向かいながらそこに重心をのせます。[C]の中低音の旋律はたくさんアクセントが書いてありますが、決して痛々しい音符にならないようにしっかり響きを持ったアクセントになるように演奏しましょう。4小節1フレーズで45、49、61、65小節目の1音目がそのフレーズの重心です。上手に流れを作って演奏しましょう。この曲はf、ff、アクセントの指示がかなりたくさん出てきますが、やり過ぎて粗っぽくならないように注意しましょう。

◆String Bass

7小節目のCのフィンガリングですが、6小節目の最後のDを第3ポジションの4で取り、そのまま1でCを弾いてからB^bのタイミングでシフトすることもできますが、DからCを4→4でシフトして第2ポジションで7小節目に入ればC→B^b→B^bを動かさずにとれます。2の指の音程が曖昧にならないように左手の半音の幅に気を付けながら、指がもつれないように左手の押さえる力を強化する練習を取り入れてください。9小節目や11小節目などのスラーはリズムがすべったり、開放弦を使用した場合は移弦の関係でスラーに聴こえないことがあるので

注意しましょう。[C] はアクセントのついている音とそうでない音が一緒にならないように、またアクセントの中でもどの音が重要なのか考えながら演奏してください。46 小節目の 2 回目のフレーズはいくつかフィンガリングチョイスが考えられますので、どのポジションでとれるかぜひいろいろなパターンを試してみてください。[I] はすべての音にアクセントが書かれていますので、[C] と区別するためにも 1 つ 1 つははっきり演奏します。特に 129 小節目と 133 小節目の 8 分音符 3 つからの流れはメロディを受け継ぐ気持ちで演奏しましょう。

◆Timpani

F、G、B^b、C の 4 つの音が使われています。そのまま 4 台の楽器に当てはめた時、1 番小さい楽器で C は音程やアタックが不明瞭になり易いので個人的に推奨しません。多少ペダリングが複雑になりますが、大きい 3 台で演奏する事をお勧めします。また「ロールして別の音程に移る」音型が多用されています。この時、フレーズの移り変わりの部分である事が多いです。例えば、8 小節目のロールはフレーズが移る準備の音、9 小節目は次のフレーズの最初の音です。その事を踏まえ、行き着く先の音 (9 小節目) をどんな音量、音色にするのかをまず考え、ロール (8 小節目) をどう演奏するべきかを逆算して下さい。アクセントも多く使われています。全て同じように演奏するのではなく、場面ごとに叩き分けましょう。「その音を目立たせる」アクセントもあれば、「音の立ち上がりを明確にする」ためのアクセントもあります。また、「バンド全体で付ける」のか、「一部のパートのみ付いている」のかでも変わってきます。スコアを見たり、指揮者や他の奏者の方とよく相談したりして下さい。曲全体を通して低い音域が使われています。特に低い F はうまく残響を処理しないとバンドの響きをマスキングしてしまい、全体のサウンドが濁ってしまうので注意して下さい。様々なテクニックが要求されているパートです。是非スキルアップに繋げて下さい!

◆Percussion 1 (Snare Drum)

マーチの Snare Drum の基本は課題曲 2 に書いています。まず最大の課題は、8 分音符・8 分休符・8 分音符のリズムが付点 8 分音符・16 分音符のリズムになってはいけないということです。できれば電池式のメトロノームを用意し、3 連符を鳴らしながら練習すると良いでしょう。また 6/8 拍子は大きく 2 拍子と捉えますが、決して括られた 3 つの 8 分音符で完結してはいけません。3 拍目から 4 拍目へ、また 6 拍目から次の小節へつなげる意識で演奏しましょう。アクセント表記の非常に多い楽譜です。しかしその音を強く叩くわけではなく、少し際立たせる程度と思って頑張りすぎない演奏にしましょう。

◆Percussion 2 (Bass Drum)

[A] からは、最初の 4 小節目間は軽く 1 小節 cresc. 1 小節 dim. を、次の 4 小節目間は 2 小節で cresc. 2 小節で dim を行ってみるとシンプルなりズムの中にも音の幅が生まれます。[B] からも同じように mf を基本に強弱の波をつけることで、発展させることができます。45 小節目のアクセントは強い音というよりは、鋭くハッキリとした音色を心がけてください。[K] から頻繁に出てくるアクセントはメロディを意識して演奏すると良いでしょう。167 小節目は

Crash Cymbals と同じリズムなので、アクセントを始め響きの止め方も合わせられるように気をつけましょう。

◆Percussion 3 (Crash Cymbals)

8分音符・4分音符・付点4分音符の差をいかにつけられるかがポイントです。単純にその長さで止めるのも選択肢の1つではありますが、間に合わない場合もあります。音色でそれぞれのニュアンスをつけましょう。

◆Percussion 4 (Glockenspiel)

マレットはミディアムハード位の固さの物と、ミディアム位の固さの物を準備し、Trio 以降で使い分けをしても良いでしょう。連符は同じ動きをしている木管等と揃えられるように意識をし、出だしの音をクリアに演奏しましょう。